

# 百間川分流部改築の概要① 現状と整備計画位置付け

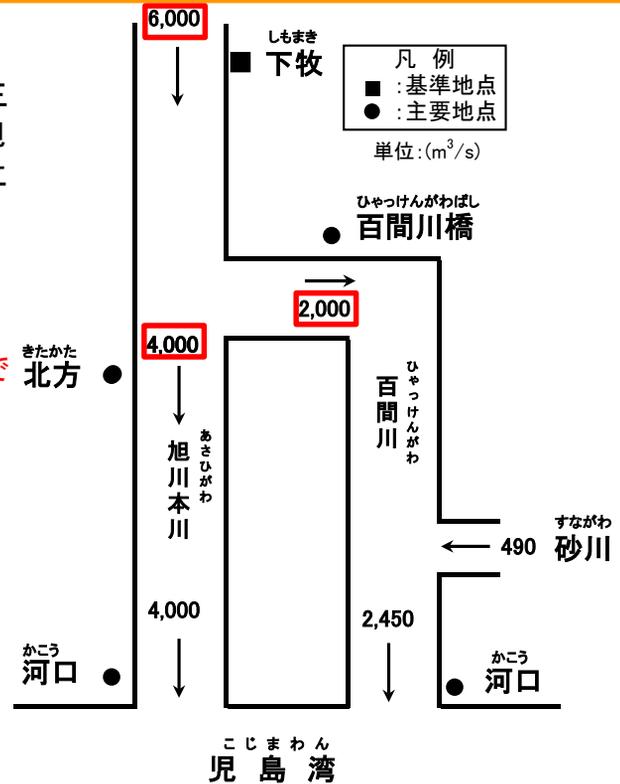
## 百間川への分流の現状

分流部は、旭川から百間川へ分流を開始する地点(三野)の水位が6.1mを越えると百間川へ分流を開始し、旭川の洪水流量のうち一定の量を百間川に分流し安全に流下させることで、旭川下流地区の岡山市街地を洪水被害から守ることを基本的な考え方としています。

現状で計画高水流量である6,000m<sup>3</sup>/sが旭川本川に流下した場合、本川の樹木繁茂により分流部の本川の水位が計画高水位を超過し、百間川に計画高水流量である2,000m<sup>3</sup>/s以上が分流します。



百間川分流部



河川整備基本方針の流量配分図(平成20年1月策定)

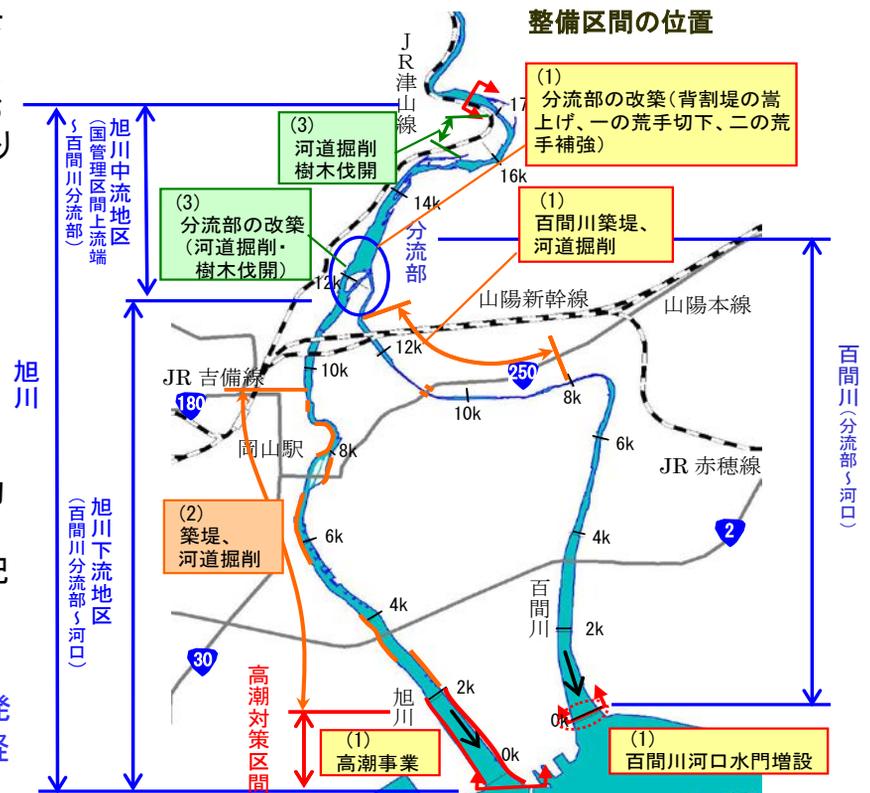
## 旭川水系河川整備計画【国管理区間】での位置付け

百間川への適正な分流と旭川下流地区・百間川全体の治水安全度の向上を図るとともに、洪水時における被災防止のため、以下のとおり分流部を改築します。

- ・一の荒手の切り下げと補強
- ・百間川の護床工等の設置と河道掘削
- ・背割堤の築堤(断面確保)
- ・二の荒手の補強
- ・旭川の樹木伐開と河道掘削

なお、改築にあたっては、歴史的遺構である一の荒手、二の荒手の保存および分流部の周辺環境に配慮し実施します。

旭川下流地区および百間川においては、昭和47年7月洪水が再び発生しても、浸水被害の防止または軽減が図られるとともに、旭川本川から百間川への適正な分流が可能となります。



※旭川水系河川整備計画より抜粋

◻ : 国管理区間

# 百間川分流部改築の概要② 歴史的遺構について

## 百間川分流部の歴史的遺構【一の荒手(亀の甲)・二の荒手】



百間川分流部周辺航空写真



一の荒手(全景)



一の荒手(下流亀の甲)



一の荒手の整備イメージ



二の荒手

## 過去の被災状況

・歴史的遺構である一の荒手(亀の甲)、二の荒手は、空石積み構造であり、過去の洪水で度々被災している。



百間川への分流状況及び一の荒手・二の荒手被災状況 (平成10年10月洪水)

# 百間川分流部改築の概要③ 歴史について

- 分流部は、江戸時代に岡山城下の洪水被害軽減等を目的に熊沢蕃山が越流堤と放水路を組み合わせた「川除けの法」として考案され、貞亨三年(1686年)に津田永忠により百間川が築造されました。
- 「川除けの法」は、一定量を超えた旭川の水を荒手堤を越えて百間川側へ流出させ、岡山城下を洪水から守る方法です。
- 三段(3ヶ所)の荒手により水勢を弱めながら旭川の洪水を下流に越流・放水させます。
- 二の荒手、三の荒手は洪水時の土砂溜め機能を有していました。(三の荒手は明治25年洪水で流出し現存しません。)

## 分流部の歴史的経緯

旭川の水量が増加

「一の荒手」を越流

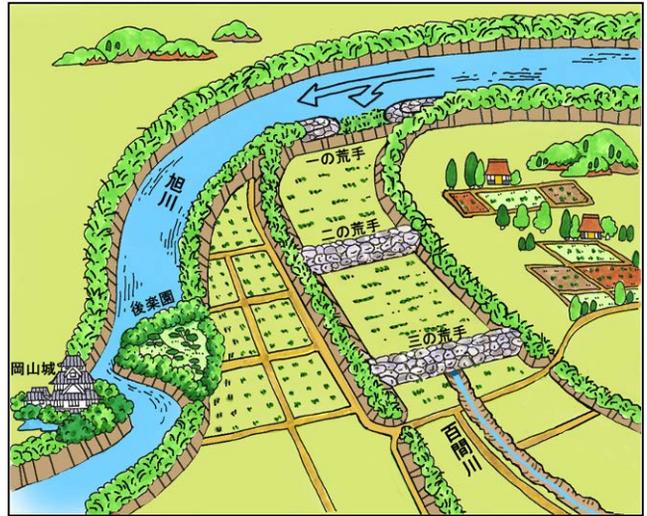
「一の荒手」と「二の荒手」の間に貯留され土砂を沈殿

さらに水量が増加

「二の荒手」、「三の荒手」を超えて百間川に流入

### 【荒手の効果】

- ・ 洪水の流れる速度を抑制
- ・ 砂の流出を抑制



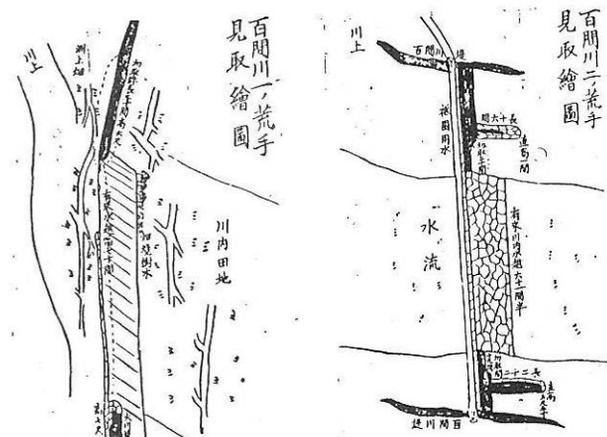
三の荒手は現存せず



## 歴史的遺構

一の荒手、二の荒手は、江戸時代に百間川と合わせて築造された貴重な歴史的遺構であり、二の荒手は文化財として、発掘調査等も行われています。

これらの分流部の歴史的遺構は、学識者や地域住民等で構成される協議会において、保全活用の提言が出されています。



1814年(文化11年)に作成された一の荒手・二の荒手の見取り絵圖